

整理番号 2019P-060

補助事業名 2019年度 全国的なスポーツ。パラスポーツ大会の開催 補助事業

補助事業者名 特定非営利活動法人 九州車いすテニス協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

車いすテニスを通じ日本国内及び外国の身体障害者間のスポーツ交流・相互理解を深め、さらには車いす障害者の基礎体力・精神力の構成をはかり、障害者に勇気と希望を与え、社会に参加する意欲を大いに喚起することを目的とする。

(2) 実施内容

第35回飯塚国際車いすテニス大会 (Japan Open 2019)

(<http://japanopen-tennis.com/>)

期間：平成31年4月23日(火)～4月28日(日) 6日間

場所：飯塚市仁保 筑豊ハイツ・県営筑豊緑地内テニスコート

グレード：スーパーシリーズ

参加選手：16都道府県より国内選手52名、16か国・地域より国外選手48名 計100名

来場者数：計7100名、メディア数：計54社、ボランティア数：延べ2000名



男子シングルスで優勝し天皇杯を手にした国枝選手



インタビューを受ける女子シングルス準優勝の上地選手



男子シングルス準優勝のウデ選手 (フランス)



会場設営を手伝う学生ボランティア



選手の荷物運搬は自衛隊が担う



ボランティア・スタッフ集合写真

2 予想される事業実施効果

東京パラリンピックを一年後に控え、車いすテニスに限らず、障がい者スポーツへの関心は最高潮に達している。その中でパラリンピックさながらの最高レベルの大会を開催したことで、今後以下のことが期待できる。

- ・ 沢山の観客に見て頂くことで、車いすテニスが単なる障がい者のためのスポーツではなく、競技性の高い、一スポーツだということを知っていただくことができた。そして、障がい者が持つ可能性を知っていただき、会場に足を運んだ人がその感動をシェアすることで、多くの人が車いすテニスに興味を持ち、ファン人口が増えることが期待できる。

- ・ セカンドクラスに出場していたジュニアが、今後メインクラスに出場。ポスト国枝を目指すことにより、次世代の技術力がアップ。次世代が増々活躍することで、もっと小さなジュニアたちがその背中を追い、車いすテニスは東京パラ以降も人気の衰えることのない競技として確立する。

- ・ アジアに一つしかないスーパーシリーズを行うことで、近隣アジア諸国の選手が高ポイントをとりに来ることができ、また、試合レベルの高さだけでなく、大会運営を感じることで、自国の車いすテニス発展・大会運営の普及に繋げることができる。

- ・ 大会会場は、各国全ての選手の情報交換の場となり、それぞれの技術向上のモチベーションにつながる。

- ・ 地域の方たちが、ボランティア・寄付・観戦などに関わることで、車いすテニスを意識し、町の誇りとすることで、自分の生きがい・楽しみを見つけ、地域活性化につながられる。

- ・ 小都市飯塚市で車いすテニス大会を開催し、市をあげて盛り上がることで、飯塚市が「共生社会ホストタウン（ユニバーサルデザインのまちづくりと心のバリアフリー

に取り組む)」となったり、近隣地域を巻き込んだ「テニスのまちづくり」を推進したりしている。飯塚市は今後も車いすテニスを通し、更なる地域活性化に取り組んでいく。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

第35回飯塚国際車いすテニス大会 (Japan Open 2019) パンフレット (左)

第35回飯塚国際車いすテニス大会 (Japan Open 2019) 報告書 (真ん中・目次)



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

ポスター、チラシ (両面)、大会リーフレット

